

は既に和守慶一ワンクンタ原一150高地附近に逐次進出し62Dは寡兵より之と激戦中なり此の頃IIの状況不明なりしを以て將校斥候を派遣し搜索の結果IIは我如古東方高地線に進出せるも孤立無援に陥り衆敵の攻撃を受け損害續出し兵力の大半を失ひたる状態なりIIIの状況は不明なり

ロ前項命令に基く和守慶一上原一棚原の線は其の後の状況及聯隊より意見具申に依り我討一小波津一翁長一幸地の線に改められ四月十三日聯隊長は師團命令に基きIに對し150高地に對し大規模の斬込を以て敵進出の妨害並に擾亂を命じたるも遂に成功するに至らず第一中隊長鈴木中尉以下數十名を失ふ、戦果不明なり

ハ師團主力の首里附近進出に伴ひ聯隊は中地區隊として翁長幸地の線を確保し敵を陣前に破推すべき命を受けIを以て同線を占領せしめ四月二十三日所命の如く配備を完了す

ニ四月二十五日頃より敵は逐次陣前に現出し来る

同時聯隊本部は連玉森より辯ヶ嶽に移動す

ホ四月二十二日頃IIは聯隊に復歸聯隊の右第一線となり首里秘密飛行場東側合を占領せしむ

ヘ右陣地に對し敵は二十七日頃より戦車を先頭とし攻撃し來り、

Iは之と激戦力斗五月三日朝迄連日其陣前に於て一五〇〇二〇〇の敵を殺傷するの戦果を挙げ其企圖破推に努力せるも我方又損害甚からず此間歩兵砲中隊長以下多數を失ふ

2. 歩第八十九聯隊

イ四月十五日62Dの状況に鑑みIIを師團命令に基き連玉森に轉進し領せしめ四月二十日他部隊と交代歸還す

ロ聯隊は新作戦準備の爲首里戦線に轉進の命令を受け四月二十七日日没後行動開始四月二十八日日没後左の如く潛伏待期せり

聯隊本部 新川

- I 津山附近
- II 首里到着と同時に 321 に配屬
- III 南風原附近

ハ師團命令に基き II (TAS 一小 R1A 一小 MG 一中配屬) を二十八日出發二十九日首里到着 321 長の指揮に入りしむ

ニ聯隊は前項の位置に於て總攻撃の準備をなす
 歩兵第三十二聯隊

イ聯隊は師團命令に基き I を基幹とする部隊を四月二十二日夜出發四月二十三日夜新川附近に於て師團長の直轄たらしむ同部隊は爾後師團長直轄として小波津附近を確保し右 891 左 221 に進襲し連日力戦奮斗し多大の戦果を収め師團長より賞詞を受け四月二十八日 891 と交代二十九日首里北側に於て聯隊に復歸せり小波津附近の戦斗に於て矢へる兵力約半數なり
 ロ聯隊主力 (I 基幹) は師團命令に基き二十三日日夜後原駐地

出發同夜南風原、津嘉山、本部、長堂周邊地區に潜伏次で一大隊の兵力を以て速に前進前田北端を確保し 62D 賀屋支隊を救出すべき師團命令を受領し聯隊長は II を基幹とするものを以て二十六日夜同地出發同二十七日夜同地確保同支隊を救出任務を遂げると同地進出戦斗に多大の損害を受け其兵力の約半數を失へり戦果大なりしも實數明瞭ならず

ハ聯隊主力は爾後首里京側地區に京面して陣地構築を命ぜり砲撃構築中なりしも之を中止し聯隊主力を以て II を併せ指揮し前田東側台地を占領確保すべき師團命令に基き二十八日夕出發二十九日夕同地に進出之を確保したるも進出途に既に約半數の損害を被れり

ニ四月二十九日聯隊正面の重要なるに鑑み 891 を配屬し師團の右翼方面に於ては 221 の戦斗地域たる 120、146 高地附近に對し敵逐次侵透し來りしを以て聯隊に對し之が奪回を命ず

聯隊長は小波津附近より交代歸還せるIを以て146高地、新に配属したるII⁸⁹¹を以て120高地の奪回攻撃を命じ146高地は五月一日夜之を奪回し得たるも120のII⁸⁹¹の攻撃は一日、二日の再度に奪るも成功せず其儘に攻撃を實施するの已むを得ざるに至れり

ホ五月三日夜I⁸⁹¹を指揮より脱し原所屬に復歸せしむ

二五四月三十日軍は前面の敵に對し總攻撃を實施し一舉に敵を潰滅するに決し攻撃命令を下達する所あり其の要旨左の如し

一、攻撃開始の時期 五月四日〇四五〇黎明攻撃開始三十分間攻撃

準備射撃

二、進出線

喜捨場東西の線

三、62Dとの作戰地境 現在の通り

二六、師團は右命令に基き五月一日早朝攻撃に關する命令を下達す其の命令の要旨、各部隊の攻撃準備、攻撃狀況等概ね左記要圖第四の如し

二七、五月四日總攻撃に於ける師團各部隊の狀況概ね左の如し（要圖第四参照）

一、師團長首里戰鬥司令部に在りて作戰を指導す

二、歩兵第八十九聯隊

イ 四日正午頃より行動を開始し五時を期し攻撃を開始すIIは當時

321の指揮を脱し首里方向より轉出歸還途中なり

當時敵の銃聲響迫撃砲射撃熾烈にして損害極めて大なり

ロ 五日I⁸⁹¹は要圖第四の位置に達するや時既に天明にして敵の銃聲響、迫撃砲射撃の集中を受け部隊は混沌たる状態となり指揮者の大部分は死傷せり、殘存者は指揮者を失ひ或は斃れ或は負傷し稍々無統制の状況となる依つて聯隊は一時攻撃を中止するの已むを得ざるに至れり

ハ IIは當時第三線部隊として連玉森附近にて攻撃準備中なり

ニ 總攻撃の中止に伴ひ師團命令に基き一時安城に後退し再編制を

命せられ各部隊より兵員の補充を受け五月十日Ⅲの編制を完了せり

本戦斗に於る現在迄の損害概ね左の如し

1 Ⅰは殆ど全滅谷中隊生存者十名内外にして指揮官は殆ど皆無の状態なり

2 Ⅱ第六中隊は中隊長以下各小隊長の幹部殆ど全滅

3 Ⅲ長丸地大隊Ⅳ前田大隊戦死

3. 歩兵第二十二聯隊

聯隊は中突進隊となり右⁸⁹¹左⁸⁹²に連袂し特に其の一部を以て翁長西側台地に来る敵を撃滅して右突進隊の攻撃を容易ならしむる如く命せられ¹として此の任務に當らしむ

聯隊は四日〇四三〇の砲兵の攻撃準備射撃突撃支援射撃に膚接し攻撃前進し幸地北端附近の線迄進出せしも遂に總攻撃中止となる第十一中隊は中隊長以下全員歸還せず

4. 歩兵第三十二聯隊

1 聯隊は師團の左突進隊として左の如く部署し行動す

Ⅰは五時行動開始第一線大隊として¹²⁰高地を経て棚原西北側高地に前進する如く命じたるも天明と共に敵の猛射猛爆を受け第三中隊の如き70%の損害を被るに至り已むなく晝間の攻撃を一時断念し夜に入り聯隊命令により攻撃を再興し¹²⁰高地前田の間地區を突破し予定の棚原西北台地を確保す翌五日天明と共に敵の猛火猛攻を受け死傷續出したるも翌六日聯隊命令を以て後退する迄約三日間能く頑強に之を確保し敵線内深く敵に與へたる脅威大なるものあり軍司令官より感状を授與せらる

^{26B}第二線大隊として¹⁴²高地進出を命じ予定の如く前進したるも前田附近以降消息を絶つに至り

Ⅱは友軍砲兵支援射撃の下前田附近敵突破の後第三線攻撃部隊として第二線大隊に跟随すべきを命じ予定の如く行動を開始